## Global Coronal Modeling

京都大学 宇宙物理学教室 M2松本 琢磨

## UH7scrs／Sngors Letirnify

I000



## 最近の研究

## Global Corona

－コロナ底部～地球軌道
－Trans－alfvenic MHD flow

世界の研究グループ
－Manchester
（Michigan）
－Mikic \＆Linker
－Hayashi

## 典型的な計算手順

## Time Asymptotic Method

与えられた境界条件で定常解を得るまで計算を行う。初期条件はほぼ任意。

## STEP I

ポテンシャル磁場＋
パーカーの太陽風解
STEP 2
境界物理量（温度密度）の操作
STEP 3
CMEの伝播

## STEP I

（ポテンシャル磁場＋
パーカーの太陽風解）


- 温度密度を一様とする。
- 視線方向磁場を用いる。

改善点 ベクトル磁場を使う


## シミュレーション



SAIC

## STEP 2 （境界物理量の操作）

－温度や密度などを徐々に観測値に近づけていく
－自転の効果を入れる
（a）Field lines and density in 1 st simulation step

（c）Field lines and givei emperature map


## STEP 3 （CMEの伝播）

－CME self similar solution を伝播させる。

改善点 self consistent な解を用いる


初期 flux rope

9.4 hours


密度等値面

## Coronal modeling の方向性



## 研究計画

- 今年度
- 3次元CIP－MOCCT コードの球座標化（一ヶ月）
- 高精度な太陽風定常解をつくる（二ヶ月）
- 現実的な境界条件の取り入れ（MDI，EIT，Solar－B）
- CMEの伝播
- 来年度以降
- 極の回避（陰陽グリッド？）
- 宇宙天気につなげる


## 最近の研究

－Manchester（Michigan）
－ 4.9 million grid
－Mikic \＆Linker（SAIC）
－101x75x64
－Hayashi（Stanford）
－？x？$x$ ？

## 見積もり

－Cs $\sim 137 \mathrm{~km} / \mathrm{s}$
－ $\mathrm{Va} \sim 449 \mathrm{~km} / \mathrm{s}(\beta=0.1)$
－$\Delta r>R s u n / 100 \sim 7 e 3 \mathrm{~km}$
－ $\mathrm{dt} \sim \Delta r^{*} 0.4 / \mathrm{Va} \sim 6.2 \mathrm{sec}$
－Total time $\sim 5.0 \mathrm{e} 5 \times 3 \mathrm{sec}$
－Total step～3e5 step

## 現状


二次元MHD CIP-MOCCT コード
-テスト問題-

B．C．Low Self similar solution

## 太陽近傍の構造

- コロナ加熱
- 高い熱伝導
－flow＜sub alfvenic
－static atomosphere

－Large scale height
－Dense atmosphere


## Total Eclipse 1970



## 現実的な境界条件



K．Hayashi


シミュレーション

## 観測（1995，India）



SAIC

シミュレーション



観測（1997，Mongolia）


SAIC

シミュレーション
観測（I998，Venezuela）



SAIC
シミュレーション

## 観測（I999，Turkey）




SAIC



SAIC

シミュレーション
観測（2002，Australia）



SAIC

シミュレーション
観測（2006，Libya）


SAIC

